

# ハウレーカ!

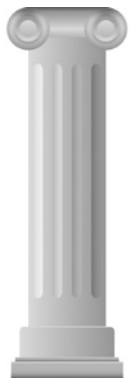
なるほど、そうか

第39回

## ゴルファーのスポーツ意識を深掘り 3

— できなかった理由、増えたわけ。始めたい人 —

喜田任紀

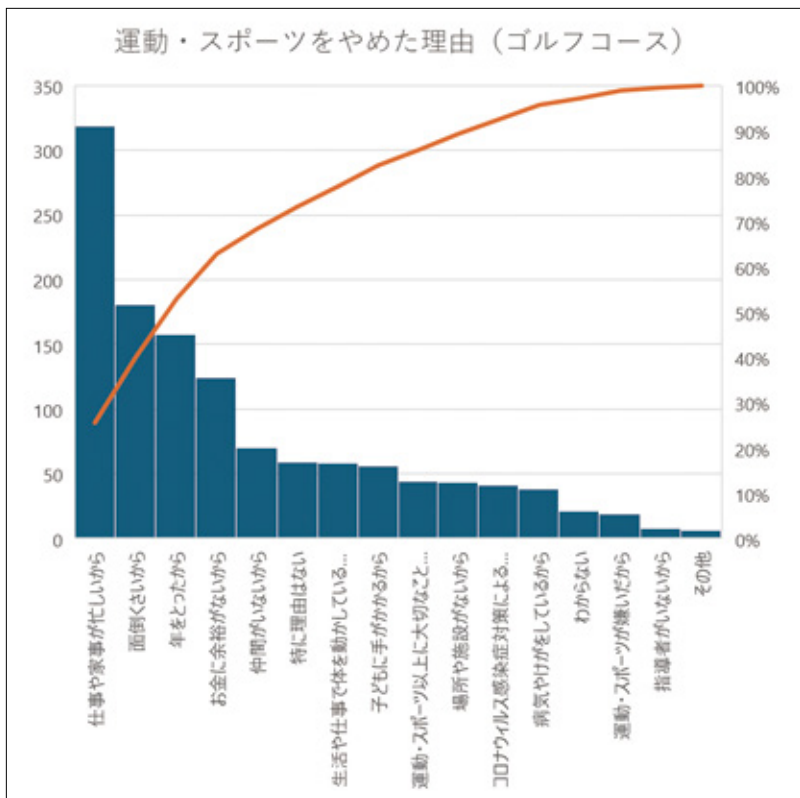


スポーツ庁の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」のデータから、なぜゴルフをするのか、どんな理由でゴルフを始めていたのか、再開したのかを紹介してきました。そして、ゴルフを始める（再開）する人が多くいる一方で、ゴルフを中断する人も多いのです。ゴルフ人口全体が減少する中で、ゴルフから離れる人をどう引き止めればいいのか、重要なテーマです。あるマーケティング専門家は、「新たにゴルフアを増やす労力より中断しているゴルファーをマーケティングに引き戻す方が効率が良いです」と話されています。ここで業界の問題は、どう対処すれば良いかの理解と研究・対策が進んでいないことのように思います。

### スポーツをやめる理由

スポーツ庁の調査結果にはゴルフを止めたというデータはありませんが、運動やスポーツができなかった理由を聞いています。いくつかある設問の中から

Q15-1-1. 1年の1年間で運動やスポーツを週に1日以上（年51日〜100日）実施できなかった理由のデータから、ゴルファーが回答した理由をまとめました。ゴルフコースでプレーしている人が、運動・スポーツができなかったと実感している理由



です。最も多かった理由は、「仕事が忙しいから」でした。次いで面倒くさいから、年をとったから、お金に余裕がないから、仲間がいらないと続きこれらができなかった理由のトップ5です。ゴルフ練習場でも結果は同じで

した。ゴルファーが、何かのきっかけでゴルフを止める、中断するとしたらこうした理由が考えられます。20代から40代については、「子供に手がかかるから」が上位5位の中に登場します。この理由はゴルフの問題というより政治課題だと思えます。業界とすれば政策要求をすべきでは。60代や70代では年をとったからが1位に登場し、2位には仕事忙しい、3位に面倒くさいが続きます。

これらはゴルフ場が直接関与できる問題ではありませんが、利用を図るうえで配慮しなくてはいけない背景が見えてきます。高齢者の利用を維持、継続させるには面倒くさいと感じさせない対応が求められます。楽なゴルフが一番ということです。

### 主成分分析の結果は

前回紹介した理由の仕分けを主成分分析で行いました。解析は例によってAIにお願いしました。主成分についての解析はこうです。

ゴルフコース

固有ベクトル	仕事や家事が忙しいから	子どもに手がかるから	病気やけがをしていないから	年をとったから	場所や施設がないから	仲間がいないから	指導者がいないから	お金に余裕がないから	運動・スポーツが嫌いだから	面倒くさいから	運動・スポーツ以上大切なことがあるから	生活や仕事で体を動かしているから	コロナウィルス感染症対策によるスポーツの必要性	その他	特に理由はない	わからない
第一主成分	0.51	0.18	0.11	0.36	0.24	0.29	0.11	0.32	0.15	0.35	0.24	0.26	0.19	0.01	-0.06	-0.03115
第二主成分	-0.59	-0.50	0.15	0.28	0.28	0.22	0.08	0.04	0.17	0.07	0.00	0.11	0.28	0.18	0.06	0.025025
第三主成分	-0.15	0.11	-0.13	-0.49	0.33	0.38	0.14	0.20	0.30	-0.08	0.31	-0.21	-0.22	-0.25	0.22	0.083877

#### 第一主成分

・仕事や家事が忙しい、年をとった、お金に余裕がない、面倒くさいなどの理由でスポーツに参加しない傾向が強く、負荷量が最も大きくなっています。

#### 第二主成分

・仕事や家事が忙しい、子どもに手がかるなどの理由でスポーツに参加しない傾向が強く、

い。

#### 第三主成分・運動・スポーツが嫌い、仲間がいないなどの理由でスポーツに参加しない傾向があります。負荷量は約1・07で、第二主成分とほぼ同じ程度の説明力を持っています。

まとめると、個人の状況や好みみがスポーツ参加に大きく影響していることがわかります。特に、仕事や家事が忙しいことや高齢がスポーツ参加の障害となるようです。また、運動・スポーツが嫌いなどの、どこから手をつければよいかと迷いますが、できない理由として重要です。

第一主成分と第二主成分に「仕事や家事が忙しい」が重なって登場します。第一主成分の結果については、「仕事や家事が忙しい」は負荷量が正の値(0・74)ですから、第一に「仕事や家事が忙しい」などの個人の状況や生活上の制約が大きく影響しているということです。つまり、第一主成分が高い人ほど、仕事や家事が忙しいという理由でスポーツに参加しない傾向があります。

向があります。

一方、第二主成分では、「仕事や家事が忙しい」は負の値(▲0・52)です。これは、第二主成分が「仕事や家事が忙しい」などの要素とは逆の側面を捉えていることを示しています。つまり、第二主成分から分かることは、「年をとったから」や「場所や施設がないから」、「仲間がいないから」といった理由でスポーツができなくて、この数値が高い人ほど、仕事や家事が忙しいという理由でスポーツに参加しない傾向は低いということです。

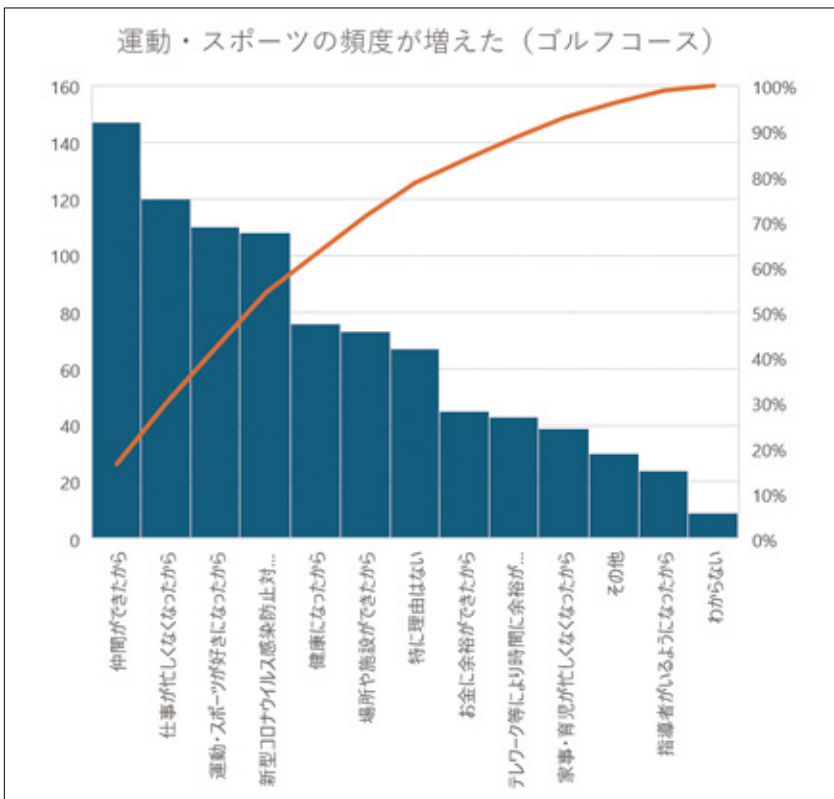
こうした結果は、スポーツができない人はいくつかのパターンに分類できるということです。そこで真逆の結果が出た「仕事や家事が忙しい」と答えた人を4パターンに分けてみました。

#### ■タイプ1. 「仕事や家事が忙しい」という理由が第一主成分で高く、第二主成分で低いタイプです。仕事や家事が忙しいことがスポーツに参加しない主な理由で、他の要素(例えば、仲

間は、面倒くさいと感じさせない対応が求められます。楽なゴルフが一番ということです。

間がない、運動が嫌いなどはあまり影響していないと考えられます。生活上の制約が大きい人です。仕事や家事が忙しく、年を取った、お金の余裕がないなどの理由でスポーツに参加していない。

■タイプ2. 第一主成分で「仕事・・・」が低く、第二主成分で高いタイプで、仕事や家事が忙しいという理由はあるものの、他の要素（例えば、子どもに手がかかる、場所や施設がないなど）がより大きな影響を与えて



いると考えられます。社会的な制約が大きい人で、子どもに手がかかる、仲間がない、指導者がいないなどの社会的な理由でスポーツに参加できていません。

■タイプ3. 第一主成分と第二主成分の両方が「仕事」が高いタイプで、仕事や家事が忙しいという理由と他の要素の両方がスポーツに参加しない理由として影響していると考えられます。個人的な好みや価値観がスポーツ参加に影響する人で、運動・スポーツが嫌い、面倒くさい、運動・スポーツ以上に大切なことがあるなどの個人的な理由からスポーツに参加しない。

■タイプ4. 第一主成分と第二主成分の両方が低いタイプで、仕事や家事が忙しいという理由はあるものの、それがスポーツに参加しない主な理由ではないと考えられます。日常生活や仕事で身体を動かしているからとか、コロナウイルス感染症対策によるスポーツの必要性は認識しているが、既に活動的なライ

フスタイルを送っているため、追加のスポーツには参加しない。といった分類ができます。

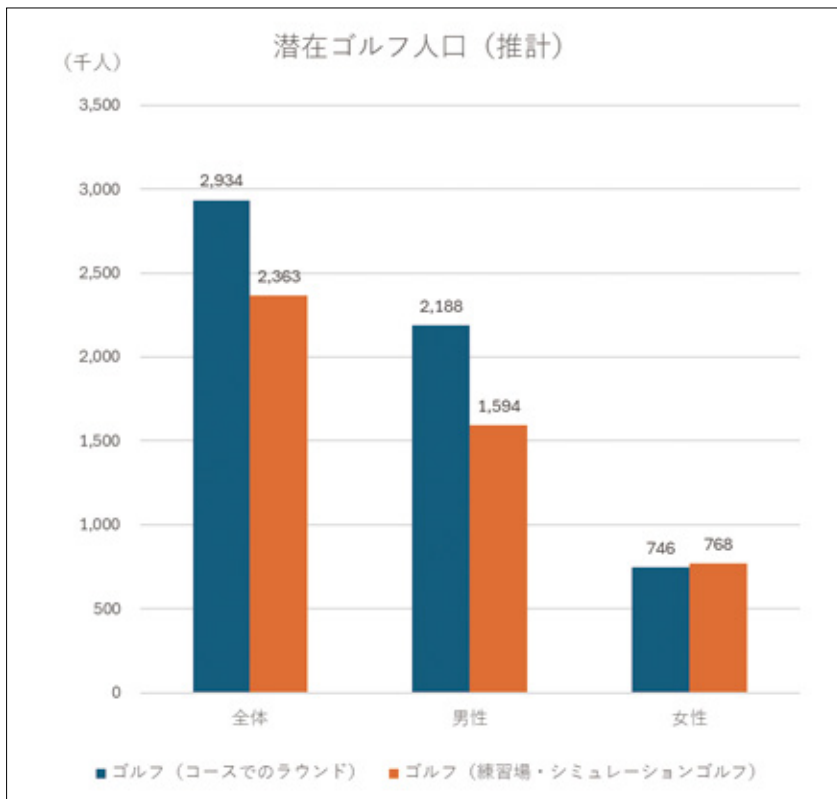
ゴルフをやめる、中断する人を引き留めるきっかけをこうした分類から対策を考えるヒントを見つけてほしいわけです。顧客を知るといふマーケティングが重要ということになります。

### 運動を増やした理由

やめる人がいれば回数を増やす人もいます。ゴルフをもっと楽しむ、回数を増やすには理由があるわけです。

どんな理由で運動やスポーツの参加回数が増えたのか。答えは、ゴルフを始めた理由につながります。最も多かった理由は、「仲間ができた」です。この回答にはやはりと納得です。ゴルフをする、始めた理由にあったように、ゴルフは誘い、誘われて継続でき、ラウンド回数も増える。ゴルフ場としては、仲間と楽しめる環境整備が絶対必要だということです。

次いで多かったのが「仕事



忙しくなくなった」です。3番目が「運動・スポーツが好きになった」、この人は、ゴルフにハマってしまったわけですね。以下、「新型コロナ感染防止対策でスポーツの価値に気づいた」、「健康になった」と健康に関する

項目が続きます。これだけ健康に関心が高いのですから、コンシューマ・ファーストの業界は、ゴルフアーやゴルフに関心のある人たちに対してゴルフと健康に関する情報をもっと積極的に発信すべきです。

## ゴルフを始めたい人

ゴルフ人口が減少しています。ゴルフを始めたいと思っっている潜在ゴルフ人口は安定して多いのです。

参加希望率は全体で3・1%。男性だけでは4・7%、女性は1・6%です。推計される人口は男女計で293万4000人です。男性は218万8000人、女性は74万6000人になります。

これだけゴルフを始めたい人がいるわけですから、ゴルフ人口の増加も期待したくなります。便宜的にどれだけの人口増が期待できるかをグラフに示しました。

ゴルフ振興では誰もが女性ゴルフアーの増加を口にし、多くの関係者は女性に期待を持つわけですが、しかし、どうも具体的な対策はとなると、女性ゴルフアー企画に象徴されますが、採用される対策は競技に集中してしまいます。既存の女性ゴルフアーの満足度を高くすること

がプロモーションの目的であれば競技は有効な対策だと思えます。女性ゴルフアーの目的はゴルフ振興であり、既存の女性ゴルフアーに向けた対策と初心者や潜在ゴルフアーの顕在化も目的にあるはず。女性ゴルフアー開催期間中に初心者や未経験者を対象にした企画やイベントがどれだけ開催されたかも、呼びかけ団体は調べてほしいものです。どうも、成果評価が十分にできていない気がします。

開催されたイベントの数だけでなく、参加した人数、年齢構成なども調べれば、これから取り組む女性対策の貴重な情報(データ)が入手できます。来年度の取り組みに大きな力になってくれるはず。呼びかけだけでなく、具体的な対策として持続的な女性ゴルフ振興を考えるなら、全体構想をゴルフ場関係者などが共有することで有効な対策の実施と成果につながると思います。ぜひとも呼びかけだけに終わらない対策を期待します。